

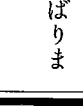
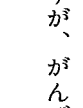
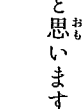
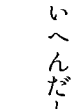
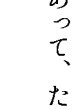
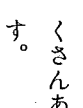
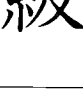
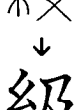
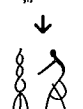
級

三年

画数 9
筆順

糸 級
キユウ

成り立ち



人に手をかけた形をあらわし、「人をつかまえる」というみをあらわした「及(吸年 89)」と、「糸」とを組み合わせて作った字で、「糸をつかまえること」→「糸をとり扱うこと」をあらわした字です。

おりものをおるとき、糸を「扱」いやすいように、あらかじめ「品分け」します。「糸の品分け(区分)」をあらわした字です。

今では、糸にかんけいなく、「品分け」「区分」のいみにつかいます。【例階級、等級】

また、「ものごとのじゅんじよ」のいみにつかいます。

使い方

▽下級生は、わたしたちより小さいのですから、いたわってやらなければいけません。下級生をいじめるなどということは、とても卑怯なことです。

▽ぼくは、こんど、学級委員になりました。しごとがたくさんあって、たいへんだと思いますが、がんばります。

熟語例

▽初級(最初の等級。「初級のテストに合格した」などというふうに、つかいます。次は中級、それから上級などというふうに、すすみます。)

▽等級(上下関係や優秀さの度合いを、いくつかに区分したものを。「りんごを五つの等級に分けて出荷する」などというふうに、つかいます。)

▽階級(身分の上下や、経済状態によって、位を分けたもの。「国によっては、いぜんとして、階級差別のある所がある」などというふうに、つかいます。「武士階級」「商人階級」などのようにも、つかいます。)

▽級友(クラスメート。おなじクラスの友だち)

使い方

▽日本には、赤ちやんが生まれたとき、宮参りといって、神社に参拝する風習があります。

▽「すさまじきものは宮仕え」といって、むかしから、奉公するのは、大変なことでした。

熟語例

▽宮城(王さまの住むお城。皇居のことです。)

▽宮殿(王さまの住む御殿。王さまのお城。「その部屋はシャンデリアがきらめいて、まるで宮殿のようにきれいだっただ」などというふうに、つかいます。)

▽宮廷(王さま・天子さまが住んでいる所。「宮廷につかえている貴族たちは、毎日、雅やかな宴をもよおした」などというふうに、つかいます。)

▽宮内庁(皇室におつかえする役所)

▽迷宮(中が複雑に入り組んでいて、一度入ると出られなくなるような大きな宮殿。そこから、解決のつかない事件についても、「迷宮入りになった」などというふうに、つかいます。)

▽離宮(皇居以外に建てられた宮殿。「桂離宮」が有名です。)

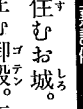
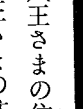
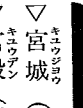
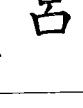
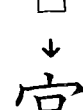
宮

三年

画数 10
筆順

宀 宮
キユウ・グウ・ク

成り立ち



「家」の形をあらわした「宀」とを組み合わせて作った字です。「家の中に、ろうかでつながれたへやがたくさんある」王さまのすむ家(王宮)をあらわしたものです。

王宮には、門が九つあります。それで、「宮」の字は「九(漢音はキユウ、呉音はク)」と読まれるわけです。【例宮城、宮殿、宮廷】

また、「神をまつた」や「しろ」のいみにもつかわれ
ます。【例伊勢神宮、明治神宮】